

Web サイトによる成果公開

1. はじめに

資料デジタル化事業をはじめとする本プロジェクトの事業成果を広く公開するため Web サイトを開設している。当初は、資料のデジタル化が完了しはじめる平成15年度から開設する予定であったが、その途中経過や、それ以外の事業成果の公開も必要であるという考えから、平成13年6月から公開を開始した。ここでは、製作の基本方針と内容について紹介し、その意義と課題について概観したい。

2. 経過

平成13年度4月から Web サイトの公開にむけて作業を開始すると共に、方針および内容についての基本的な枠組みを確定した。同年6月に、大場磐雄博士写真資料(平出遺跡編)を含む基本的なコンテンツの試験公開を始め、翌月の実行委員会での承認を経て正式公開を開始した。その後、シンポジウム予稿集や、Web サイトオリジナル資料である櫻井満博士写真資料を掲載した。

平成14年度には、大場磐雄資料目録や各講演録などを含む12年度・13年度『事業報告』の内容を掲載し、また、Web 独自に杉山林継博士写真資料の公開を開始した。

平成15年度には、前年度事業報告内容を掲載したほか、Web 独自に折口信夫写真資料(歌舞伎絵葉書資料)を公開した。また、英語版および中国語版の公開も開始している。

この間、シンポジウム・フォーラムなどの開催告知やその簡単な報告などを随時掲載してきた。

3. 基本方針

他の媒体と比較した時の Web サイトの特徴として、容量・カラー使用の制限が少ないこと、逐次更新が可能なこと、全世界から閲覧可能なことなどが挙げられる。これらを踏まえ、以下のような基本方針を定めた。

まず、対象については専門研究者向けとした。これは事業成果として発表するデータをそのまま掲載し、新たに一般向けの文章等は製作しないという製作便宜上の措置からであるが、実際に公開して

みると専門家研究者以外からの問い合わせも多く、さまざまな装飾を施した付加価値よりも、資料の基礎データを確実に公開したデータそのものの重要性が見えてくる(山内2003)。

内容については、資料デジタル化事業の成果のみでなく、刊行物をはじめとして、本プロジェクト全体にわたるデータを掲載することとした。成果の一部のみを公開する広報窓口的网站も多々、発表資料を全面的に Web 公開した本サイトは、常に最新の状態にあるプロジェクト全体の報告書の機能を果たすことになった。

製作・運営については、外部委託は行わず、実行委員会が直接行なうこととした。元データさえあればすぐに掲載可能であり、ま



た修正も容易である。

また、製作技術上の問題については付加価値を省いた質実剛健、軽くて・早い、コンテンツを目指し、シンプルな構造としている（山内2003）。これにより、ワープロソフトや表計算ソフトで作成したデータを手作業で素早くWeb公開することが可能である。また複雑なプログラムも使用していないため、ポータルサイトの検索エンジンで全文検索が可能となっている。利用者の多くが、キーワード検索で情報を得るという現状に適したものといえよう。

4. 内容

《トピックス》

ここでは、フォーラム・シンポジウム等の開催告知・簡単な開催報告を中心に、最新情報を逐次公表している。

《事業報告》

年刊の事業報告の内容を中心に、事業のコンセプト、名簿、年度毎の事業概要、実施したシンポジウム・講演会等の一覧、関連刊行物の紹介を行っている。

《資料デジタル化事業の成果》

本サイトの中心的コンテンツであり、大場磐雄、柴田常恵、折口信夫、櫻井満、杉山林継、宮地直一の各氏旧蔵資料の内容、作業内容、その成果などを公表している（表1）。それぞれ作業進度に差があるため、一定量の成果を公表しているものから、資料概要のみであるものまで幅広いが、容易に掲載・修正可能というWebの利点を活かし、作業中であってもその状況を公表し、逐次更新していくという方針に則ったものである。メモ書き等がなく内容の解説を新たに執筆する必要があることからこれまで紙媒体では公表していない櫻井満博士写真資料についても、画像データのみ公表している。同様に、紙媒体では殆ど公開していない杉山林継博士写真資料・折口信夫博士歌舞伎絵葉書資料についても、Web独自のコンテンツとして資料公開を行っている。

通常、Webデータベースというと図書館の蔵書検索に代表されるようなキーワード検索型をとるものが多いが、試験公開では比較的少数であることと、テキストデータの未整備という状況から現在は全体を数ページに分けて閲覧するページ構成をとっている。本サイト独自の検索機能は用意していないが、現在はポータルサイトの検索エンジンが発達しているため外部からの検索が可能である。

《調査・研究会・論考等の成果公開》

事業報告その他に掲載した講演記録や論考を中心に研究成果を公開している。事業報告等に掲載されたものが大半を占めるが、事業報告掲載時には省略した写真の全点掲載や、未刊行の講演原稿を掲

大場磐雄博士 写真資料	平出遺跡	328	493
	登呂遺跡	90	
	常陸鏡塚	46	
	浅間古墳群	34	
大場磐雄博士 資料	縄文時代資料目録	2,607	7,800
	弥生時代資料目録	1,384	
	古墳時代資料目録	3,809	
折口信夫博士 写真資料	歌舞伎絵葉書 (一部)	24	24
櫻井満博士 写真資料	八重山プーリー他	24	300
	宮古島	14	
	沖縄本島	26	
	詳細不明	15	
	美保神社	65	
	久高島イザイホー	83	
杉山林継博士 写真資料	春日若宮おん祭	73	988
	神坂峠・入山峠	524	
	都内中央道関連	464	

表1 資料デジタル化事業のWebでの成果公開内容

平成16年4月現在公開資料点数である。但し、整理未了の資料群の全点数については今後変更の可能性がある。

載するなど Web の特性を活かしたページ作りも行なっている。

《外国語による発信》

平成15年度には、英語および中国語によるトップページとコンセプト紹介ページを公開した。今後、他の主要ページについても翻訳を行なう予定である。

5 . 反響・効果

トップページへのアクセス数は1日平均10前後であり、現在のところ本サイトの周知度は低いといわざるを得ない。これは、本学トップページからリンクが張られていないことと、本サイト内のリンクをたどってトップページにアクセスした場合はカウントしていないことが原因として考えられる。しかし、既に述べたように利用者の多くがトップページから順に見ていくのではなく、検索エンジンを使って直接各ページを参照する現状を考えれば、より多くの閲覧者の存在が想定できる。

前節で述べた資料利用や作業内容の問い合わせも、Web を通じて情報を得たという例が大半であり、こうした学術利用のほかにも、掲載内容への一般からの誤りの指摘や問い合わせも少なくない。

6 . Web 公開の意義と課題

このように、Web サイトは資料公開の有力な媒体であり、また本プロジェクトの広報媒体であり、学術データ集積の場でもある。現状では、データ量の関係からほぼ手作業で製作・運営を行なっている。しかし5年間を経て資料デジタル化事業、関連研究ともにデータ量の蓄積は増しており、今後は資料デジタル化事業の成果公開とその他のコンテンツは分離して管理していくことが必要となってきた。

前者について言えば、大場博士・柴田氏・折口博士らの写真資料が入力から公開へ作業が移行しており、目録・データベースに続き、Web 公開のシステム構築が必要となってくる。現在、汎用データベースソフトでの一括公開にむけて検討を行なっているが、従来個別に整理されてきたコレクションをいかに結びつけるかという課題が持ち上がっている。整理・管理のシステムの確立と、利用しやすいコンテンツの追求という2つの面に関わることであるが、学際的研究・産学協同研究というフロンティア構想の趣旨にかなった形での事業推進が望まれる。

後者については、成果論文の一層の Web 公開、関連資料の収集・公開など、資料の充実によって、より深みのあるコンテンツとしていくことが必要である。

(中村耕作)

〔引用文献〕

山内利秋2003「文化財系画像資料の保存から活用へ - 國學院大學での取り組みを例として - 」(日本写真学会主催 平成15年度 画像保存セミナー講演原稿) <http://www2.kokugakuin.ac.jp/frontier/research/yamauchi03.html>